

Printed in Japan



この印刷製品は、環境に配慮した
資材と工場で製造されています。



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C005531



Road to SUSTAINABILITY ACTION BOOK

サステナビリティ アクションブック 2021-2022

持続可能で 豊かな未来をめざして

SDGsを指針とし、本業を通じた社会課題の解決に取り組みます。



SDGs : Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)

2015年、国連で“誰一人取り残さない”というキーワードとともに採択された国際社会の目標。

「地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを
享受できるように発展する」ために

2030年までの達成をめざす

17の目標と169のターゲットが設定されています。

Road to SDGs

お店をはじめ、あらゆる
ステークホルダーの皆さまとともに
サステナブルな社会づくりに
挑戦してまいります。

一私たちは、いかなる時代にもお店と共に、あま
なく地域社会の利便性を追求し続け、毎日の豊かな
暮らしを実現する一

セブン-イレブンは、この企業理念のもと、加盟店
様やお取引先様とともにあらゆる社会の変化に
対応し、挑戦を続けてまいりました。その結果、多く
のステークホルダーの皆さまにご支持をいただき、
21,000店を超えるチェーンにまで成長させていただ
くことができました。

一方で、社会は今大きな変革期を迎えており、
気候変動に伴う自然災害の増加、資源の枯渇、格
差の顕在化などさまざまな課題が山積するなか、
私たちが持続可能な社会づくりに貢献するために
負っている責任・役割もまた、大きなものであると
考えています。

こうした背景を踏まえ、セブン&アイグループは、
環境宣言『GREEN CHALLENGE 2050』を掲げ
「CO₂排出量削減」「プラスチック対策」「食品ロス・
食品リサイクル対策」「持続可能な調達」の取り組み
に注力し、目標達成に向け実証実験を重ねています。

また、SDGs17の目標に対しても、これからは「行動
の10年」として今まで以上に取り組みを進化させて
いくことが求められており、そのためにはお客様、

お取引先様、加盟店様、地域社会、社員など、あら
ゆるステークホルダーの皆さまと一体となって推進
していく必要があります。

未来世代に豊かな環境をつないでいくために、
セブン-イレブンは皆さまとともに社会課題の解決
に全力で取り組んでまいります。

代表取締役社長
永松 文彦



持続可能な豊かさのために

「E：環境」「S：社会」「G：企業統治」の
3つの分野で継続的な活動に取り組んでいます。

PAGE
05

CO₂排出量削減

省エネ店舗
100%再エネの取り組み
環境配慮型車両
省エネ重点6項目

CO₂排出量
削減

プラスチック
対策

PAGE
07

プラスチック対策

完全循環型リサイクル
環境配慮型容器・包装
レジ袋削減

食品ロス
対策

PAGE
09

食品ロス対策

長鮮度商品
てまえどり

PAGE
10

持続可能な調達

MSC認証／
フェアトレード認証
CSR監査

持続可能な
調達

Environment

豊かな地球環境の実現

全国2万店超のお店とともに



- 全国展開するスケールメリットを活かして
- 多様なお客様との接点を活かして
- 地域に根差した生活インフラとして

Governance

ステークホルダーとの
対話を活かした
企業統治

Social

安全・安心な暮らしの実現

地域の
皆さまと
ともに

いざという
ときへの備え

地域の皆さまとともに
セブンあんしんお届け便
セーフティ
ステーション活動
(一財)セブン-イレブン
記念財団の取り組み

いざというときへの備え
セブンVIEW
コロナ禍での対応

PAGE
11

PAGE
13



「CO₂排出量削減」「プラスチック対策」「食品ロス・
食品リサイクル対策」「持続可能な調達」の4テーマに
ついては、セブン&アイグループの環境宣言『GREEN
CHALLENGE 2050』でめざす姿と目標を掲げて
取り組んでいます。

CO₂排出量削減

気候変動問題に大きな影響を与えるCO₂の排出。

セブン-イレブンは、店舗運営に伴うCO₂排出量削減に向けてさまざまな取り組みを実施しています。

より詳しい情報はこちら

クリック!



店内気圧のコントロールで
空調負荷を低減し節電効果を向上

太陽光パネル設置店舗数

8,653店

(2021年2月末時点)

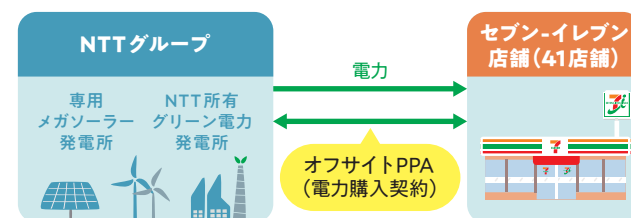
CO₂排出量削減をめざす 省エネ・創エネの最前線

2020年11月に開店した青梅新町店は、CO₂排出量の大幅削減をめざす実証実験店舗。大容量太陽光パネルなどの最新設備や各種先端技術を用いて省エネ・創エネに取り組み、その成果をもとに可能な設備から全国の店舗で設置を進めていきます。

100%再エネ店舗へ 国内初の取り組み

店舗で使用する電力の100%再生可能エネルギー化をめざす取り組みを、2021年6月からセブン-イレブン41店舗で開始。NTTグループの再生可能エネルギー発電所からグリーン電力を供給するオフサイトPPA※など、環境に優しいお店づくりを進めています。

※ PPAは、電力購入契約の略称。発電事業者と需要家の長期契約に基づき、遠隔地の発電設備から需要家の設備へ送電する仕組み



お店のみんなで実行 今すぐできる環境対策

店舗で働くオーナー様や従業員さんの環境や省エネへの意識を高めCO₂排出量削減に結びつけるため、「週1回のフィルター清掃」など電気のムダ使いを減らす重点6項目に取り組んでいます。

一人ひとりの行動を大きなチカラに!
今、私たちができること

- 駐車場ではアイドリングストップを行おう
- 近くのお店で買い物の時は徒歩や自転車の利用を心がけよう

Action Report



青梅新町店
オーナー
合田 様

省エネへの取り組みが
快適なお店づくりにつながります

お客様に見えないところで、省エネや環境を考えたさまざまな工夫が施されています。その結果、ついまた足を運びたくなる快適な空間であり続ける。そんなお店をめざしています。



詳しいインタビュー内容はこちら!

クリック!



配送車両も カーボンニュートラル をめざして

店舗に商品を運ぶトラックの一部に環境配慮型車両の導入を進めており、水素を燃料とするFC小型トラックや、電気を使用するEV配送車の実証実験を強化するなど、CO₂排出量削減に取り組んでいます。



プラスチック対策

マイクロプラスチックなどによる海洋汚染が世界的な課題となるなか、セブン-イレブンは、プラスチック使用量削減と資源循環を推進する取り組みを進めています。

より詳しい情報はこちら



クリック!



ペットボトルを再資源化する完全循環型リサイクル

店頭にペットボトル回収機を設置し、加盟店やお客様、地域の皆さまと協力してペットボトルを回収。これを原料とした再生ペットボトル※を使ってオリジナル商品「一(はじめ)緑茶」シリーズを開発し、販売しています。

※ 店頭で回収したペットボトルのみを原材料とした、「再生PET樹脂」でつくられたペットボトル



年間回収量
約2,600万本

※ 2020年3月～2021年2月

ペットボトル回収機設置状況

2021年2月末時点	2021年度	追加設置予定
529台	1,000台	

一人ひとりの行動を大きなチカラに! 今、私たちができること

- 買い物のときはマイバッグを持参しよう
- ペットボトルなどの資源回収に協力しよう
- スプーン・フォークは必要ときだけもらおう



プラスチック削減量約8,000t※を実現

全国の店舗でレジ袋を有料化。お客様のご協力によりレジ袋辞退率は約75%※、プラスチック削減量は約8,000t※となりました。有料レジ袋の収益金、約5億6,500万円※はペットボトル回収機設置費など環境負荷低減活動に充てています。

※ 対象期間：2020年7月～2021年2月

市民のニーズに応じて協働 環境対策にもつながります

市民の声からセブン-イレブンとペットボトル回収事業で協働。ご家庭で消費したペットボトルの回収拠点として役立てられているほか、市全体のプラスチック資源循環、海洋ごみ対策などの強化にもつながっています。



詳しいインタビュー内容はこちら!

クリック!

容器や包装を環境に優しい素材に

おにぎりの包材を薄くしてプラスチック使用量従来比2割減を実現。また、弁当の一部商品の容器を紙製に変更、サンドイッチの包材は一部紙素材を利用してプラスチックを4割削減するなど、さらなる環境負荷低減を推進しています。



有料レジ袋には
植物由来素材を使用

レジ袋辞退率
約75%

プラスチック削減量
約8,000t

食品ロス対策

まだ食べられるのに捨てられてしまうことで生じる食品ロス問題。
セブン-イレブンは、大切な資源の有効活用や環境負荷に配慮して
食品ロスを減らす取り組みを進めています。

より詳しい情報はこちら

クリック!



特殊
シール加工のふたで
鮮度長持ち

お客様とともに 取り組む食品ロス削減

すぐに食べる場合には、販売期限が比較的短い、手前に並べられた商品を積極的に選んでいただく「てまえどり※」の取り組みを推進しています。また、販売期限が迫った対象商品の購入でnanacoポイントを付与するエシカルプロジェクトも実施中です。

※ 農林水産省、消費者庁、環境省と連携した取り組み



この
ポップが目印

安全・安心そのままに おいしさ長持ちする商品を開発

原材料の見直しや工程・温度管理により、味や品質を損わずに消費期限の延長※1を実現。「2021年度の長鮮度商品比率※2 90%以上」をめざして、商品の開発を進めています。

※1 長鮮度商品は24時間以上の販売期限

※2 全アイテム数に対する長鮮度アイテム数の割合



神戸三川町
1丁目店
オーナー
山村 様
店長
山村 様

お店一丸となって
売り切る努力を

「もったいない」という意識を胸に、
発注の精度を上げ、商品を売り切る
努力を重ねています。お客様に食品
ロス問題をさらに認知していただける
よう働きかけを進めていきます。



詳しいインタビュー内容はこちら!



プライムデリカ
株式会社
代表取締役社長
齊藤 様

独自技術で商品の
長鮮度化に挑戦しています

新鮮さを長く保つポイントは衛生管理・温度管理です。盛り付け場の
温度を10℃以下に保つことや、独自の
密封技術で長鮮度化を実現して
います。



詳しいインタビュー内容はこちら!

Action Report

クリック!

持続可能な調達

地球と社会、人々の暮らしの豊かさを維持・改善・向上していくために、
セブン-イレブンはサプライチェーン全体を見渡し、
さまざまな取り組みを推進しています。

より詳しい情報はこちら

クリック!



サステナブルな 原材料を使用した オリジナル商品

「セブンプレミアム」は、水産商品の10%が持続可能な漁場で獲られたMSC認証商品です。
開発途上国の生産者を支える国際フェアトレード認証を取得したコーヒー豆やカカオを使った商品も取り扱っています。



サプライチェーン全体 でのCSR推進

人権や労働環境、環境保全、法令遵守など、サプライチェーン全体でCSR(企業の社会的責任)を推進していくために、米飯・サンドイッチ・惣菜・パンといったオリジナル商品を製造しているお取引先様の工場を対象に、CSR監査を実施しています。



一人ひとりの行動を大きなチカラに!
今、私たちができること

- 食材の買い物は、家の在庫を確認して計画的にしよう
- 「賢者のレシピ」を活用しよう



より詳しい
情報はこちら

クリック!

地域の皆さまとともに

安心して住める街づくりに貢献するために、全国各地の自治体と連携し、地域に密着したお店づくりをめざしています。

より詳しい情報はこちら

クリック!



買い物にお困りの方に商品をお届け

買い物に不便なエリアや移動手段に
お困りのご高齢の方が多く地域を中心に、
移動販売サービス「セブンあんしんお届け便」
を展開。全国で108台※の移動販売車を活用して、
常温、冷蔵、冷凍の食品から日用品まで約150
アイテムをお届けしています。

※ 2021年8月末現在



Action Report

高齢化が進む地域で 人々の生活を支えたい

高齢者施設や山間部などへ訪問
しています。「セブンイレブン
さんはうちの冷蔵庫」と言われ
たこともあり、「セブンあんしん
お届け便」はお客様の生活に欠か
せないものだ実感しています。

広島世羅町店
会長
宮田 様
オーナー
宮田 様



詳しいインタビュー内容は
こちら!



安全・安心を見守る 街の拠点

(一社)日本フランチャ
イズチェーン協会に加盟
するすべてのコンビニ
エンスストアと協力して、
女性や子どもの駆け
込み、ご高齢の方の
保護などに対応する活
動を推進しています。



地球温暖化対策と豊かな自然環境の再生をめざして

「セブンの森」づくり



詳細はこちら



(一財)セブンイレブン記念財団では、全国のセブンイレブン店頭
に寄せられたお客様からの募金と(株)セブンイレブン・ジャパン、企業、団
体、個人の皆さまからの寄付金をもとに産官学民が連携した地域一体型
の森づくり「セブンの森」活動を2006年から進めています。

「山の森」と「海の森」の二つの視点から「CO₂削減」と「豊かな自然環境
の再生」を進め、「森・里・川・海」のつながりを大切にし、地域の活性化に
つなげることで新しい価値を生み出す森づくりをめざしています。

活動拠点

27カ所 ※うち終了11カ所

活動面積

1,758.5ha

(2021年6月末現在)



(株)セブンイレブン・ジャパンは、ジャパブルーエコノミー技術研究組合(国土交通大臣認可法人)発行の
「Jブルークレジット・カーボンオフセット」に2021年3月より参画し、アマモ場づくりを推進しています。



いざというときへの備え

災害時に被災情報をリアルタイムで把握し
最善の対策が打てる仕組みづくりや、
新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めています。

より詳しい情報はこちら

クリック!



オーナー様が被災状況や
本部への要望を入力



オーナーコミュニケーションアプリ
(一部エリアで実証実験中)

セブンVIEWの特徴

- ◆被災地のさまざまな情報が地図に反映
- ◆本部がリアルタイムで現状把握
- ◆初動対応がよりの確に
- ◆関連アプリと連携

店舗の被災状況をリアルタイムで見える化

「セブンVIEW」は、災害発生時にお店や配送トラックの状況に加え、交通情報や天候などを自動的に集約し見える化できるシステムです。クリック一つで必要な情報のみを表示させることもでき、迅速な状況把握、対応策の検討を可能にしています。また、データは保存され、事後の検証や対策にも活用されています。

店舗状況がわかる



お客様用
除菌スタンドの設置



お客様画面に
抗菌・抗ウイルスシート



徹底した感染対策で「安全・安心、健康」を追求

お客様はもとより、オーナー様、従業員さんの健康を最優先に、レジのお客様画面用の抗菌・抗ウイルスシートや、お会計セルフレジ、クレジット非接触決済などを導入。デイリー工場、配送センターにおいても、従業員さんの体調管理、衛生管理、消毒の徹底に努めています。



より詳しい
情報はこちら

クリック!

これまでの支援

- ◆コロナ禍で産地での廃棄が増えるなか、地元食材を使用した商品を販売する「地域の食材を使おうプロジェクト」を推進
- ◆子ども食堂に食料品等をお届け
- ◆全国103カ所の医療施設に病院内でのニーズが高い飲料やカップラーメンなどを寄贈
- ◆医療用防護服の代替として合計5,500枚のレインコートを寄贈
- ◆社会福祉協議会を通じて、社会福祉施設・団体などに約43万個の缶詰を寄贈

Pick Up!

社会福祉協議会と連携し 休校中の子どもにおやつを

地域との包括連携協定に基づいて社会福祉協議会と協働し、社会課題の改善に取り組んでいます。コロナ禍においては、休校中の児童を支援するため、学童保育など国内約400カ所の施設に、菓子や玩具を約14万個寄贈しました。



一人ひとりの行動を大きなチカラに! 今、私たちができること

- 防災リュックを用意しよう
- 地域の避難所・避難経路を確認しておこう
- 非常時のことを話し合っておこう

あんなこともこんなことも

地域に根ざしたお店であり続けるために
安全・安心な暮らしを支える活動を推進しています。



より詳しい情報はこちら



KYOTO

農家を支援する「地域の野菜コーナー」



自治体と連携して、一部の店舗に「地域の野菜コーナー」を設置し、地元の農産物を販売しています。新型コロナウイルス感染拡大の影響で販路を失った農家の支援や地産地消につながり、お客様からは新鮮な農産物を購入できる場として喜ばれています。

HIROSHIMA

救急隊員の食事や応急処置の場を提供



広島市と包括連携協定を結び、救急隊の活動を支援する取り組み「A-pit」をスタート。救急隊員が次の出動に備えて飲食物を購入したり、病人やけが人の応急処置のために救急車やドクターカーを停車したりする場として、店舗や駐車場が活用されています。

NAGASAKI

冒険する長崎プロジェクト-CHANGE FOR THE BLUE-「拾い箱」



美しい海を未来へつないでいくため、2021年3月に期間限定で長崎県の1店舗に海洋ごみ対策「拾い箱」をコンビニエンスストアで初めて設置。海洋ごみの8割は陸から海に流れ込むといわれており、街中のごみを減らすため地域清掃を応援しています。

HOKKAIDO

HOKKAIDO

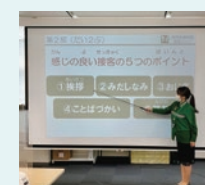
子どもの笑顔を生むリレープロジェクト



北海道庁・株式会社ポケモンと協働で「ほっかいどう笑顔をつなぐリレープロジェクト」を実施。道内の店舗限定で、ポケモンのキャラクターがデザインされたスイーツと菓子パンを発売し、その収益を活用して児童養護施設にセブン-イレブンの食品を届けています。

SAITAMA

特別支援学校へのキャリア教育



特別支援学校の生徒を対象に、就労支援研修を実施しています。レジ打ちやお辞儀、あいさつといったコンビニエンスストアでの仕事を実際に体験することで、接客業のイメージをふくらませ、キャリアについて考える機会として活用いただいています。

SHIGA

琵琶湖の環境を守る寄付金付きnanacoを発売



琵琶湖を通して地球環境を考え、持続可能な社会をめざす滋賀県の取り組み「マザーレイクゴールズ(MLGs)」に賛同。売上の一部が琵琶湖の環境保全に活用される寄付金付きnanacoカードを滋賀県内の店舗限定で販売しています。

OSAKA

子どもの居場所「こども食堂」へ食品を寄贈



子どもたちへ食事や居場所を提供する「こども食堂」へ、セブン-イレブンの食品を寄贈しています。また、こども食堂を運営する大阪市社会福祉協議会が開催した共創フォーラムに登壇して支援の実例を紹介し、子どもの居場所の必要性を広く呼びかけました。



「便利さ」の追求から 「持続可能な豊かさ」の実現へ

1973年の創業以来、人々の暮らしと社会の課題を視野に
新たな取り組みに挑戦し続けています。

1982

POS(販売時点情報管理) システム導入

いち早くPOSデータを活用し、
発注精度の向上による品切れ
防止など、単品管理を推進

1987

公共料金収納 代行サービスを開始

バーコード読み取りにより
公共料金の支払いが
24時間可能に



2007

電子マネー 「nanaco」導入

流通系初の前払い方式の
独自電子マネーで、支払いを
スマートに、買い物がおトクに

2021

サステナビリティ宣言

「明日にいいこと。つなげる、つづける。」
をスローガンに、セブン&アイグループ
全体で持続可能性を追求

2001

「アイワイバンク銀行※」 を設立

※ 現(株)セブン銀行

日本の流通業初の銀行を設立
24時間365日稼働の
ATMサービスを実現



2019

『GREEN CHALLENGE 2050』

セブン&アイグループの環境宣言に基づき、
サプライチェーン全体で環境負荷低減を推進

1970

創業の理念は
「既存中小小売店の近代化と活性化」
「共存共栄」

1980

1990

2000

2010

お客様のニーズに応えるお店から
地域社会の要請や社会課題に応える
生活インフラへ

2020

1974

第1号店の誕生(豊洲店)

日本初のフランチャイズ方式
によるコンビニエンスストア
のチェーン展開を開始



1976

共同配送の実現

異なるメーカーの商品を同じ車両で配送する
という流通業界の常識を破る共同配送を実現

1993

「セブン-イレブン みどりの基金※」を設立

※ 現(一財)セブン-イレブン記念財団

「環境」をテーマにした社会
貢献活動推進のために設立



2001

保存料・合成着色料 の使用見直し

デイリー工場での高い品質管理により、
フレッシュフードの安全・安心を追求

2019

全都道府県へ出店

製造・物流インフラを整備し、沖縄県に出店
各地域の「近くて便利」なお店へ



2011

「セブンあんしんお届け便」開始

買い物に不便を感じている方へのサービスを
ご提供するため移動販売車両を開発

“明日のための今日”は今この瞬間も

暮らしや社会のありようが変化し続ける限り
私たちセブン-イレブンの取り組みに終わりはありません。



持続可能な環境を守るために



水素ステーション併設店舗

宮城県、東京都、愛知県の全国3カ所※に水素ステーション併設店舗を展開しています。※ 2021年2月末現在



電気自動車用充電器の設置

全国52店舗※にEV充電器を設置、有料充電サービスを提供しています。※ 2021年2月末現在



店内販促物の環境配慮

店舗内に設置する販促物に、紙製や植物由来のバイオマス樹脂配合の素材を使用し、プラスチックの使用量削減に努めています。



「海と日本PROJECT」に参加

政府と日本財団が推進する海を知り、未来に引き継ぐプロジェクトに賛同し、清掃活動などに協力しています。



安全・安心な商品を提供するために



食品添加物の使用低減

お弁当などのフレッシュフードは家庭の味をめざし、食品添加物の使用を最低限に抑える自主基準を設けています。



栄養成分表示

食品表示法で定められた5項目に加え、お客様のご要望が多い糖質・食物繊維を表示しています。



地域密着の「近くて便利」なお店をめざして



行政サービスの提供

マルチコピー機で住民票の写しや印鑑登録証明書、戸籍証明書等を取得できる行政サービスを拡大しています。



自転車シェアリング

24時間いつでも使える自転車シェアリング専用のサイクルポートを全国529店舗※に設置。順次エリア拡大中です。※ 2021年2月末現在



商品寄贈の推進

改装時などに商品の一部を社会福祉協議会などに寄贈。寄贈品は生活困窮者支援団体などに分配されています。



就労支援研修の実施

行政と連携し、特別支援学校の教諭・生徒向けの就労支援「セブン-イレブンの仕事体験」を実施しています。



外国籍従業員さん向け研修

店舗で働く外国籍従業員さんを対象に、日本の文化・接客の基本を学ぶ「おもてなし研修」を実施しています。



セブンなないろ保育園

セブン-イレブン関係者と地域の方の子育てと仕事の両立を支援する場として全国で6園※を開園しています。※ 2021年7月末現在

未来につながる新たな挑戦を

仮説を立て、トライアルアンドエラーを繰り返しながら変化に対応する
——そんな“らしさ”はサステナビリティ活動でも同様です。

最短30分!

お客様までお届け



商品を配送

スマホで注文

お店に注文情報が届く

スマホで注文! 最短30分で商品をお届け

スマホから注文された商品を最短30分でお届けするサービス。仕事や子育て、介護などさまざまな理由で買い物にお困りの方に喜ばれています。東京・北海道・広島を中心に展開しており、今後も拡大予定です。

自動走行ロボットが オフィスビルで商品を配送

新しい配送のかたちを探るため、東京ポートシティ竹芝オフィスタワーで自立走行型配送ロボット「RICE」を使い、スマホから注文されたセブン-イレブンの商品を、屋内の指定場所まで配送する実証実験に取り組んでいます※。

※ アスラテック株式会社、ソフトバンク株式会社との共同事業



ドローンを活用して 離島へ商品の 即時配送を実験

福岡市西区能古島へドローンで商品を配送する実証実験を行いました※。セブン-イレブンネットコンビニで注文された商品のほか処方箋医薬品にも対応し、離島の暮らしを支えるドローンの実用化に向けた一歩となりました。

※ ANAホールディングス株式会社、株式会社アインホールディングス、福岡市との共同事業



未来を担う学生向けに 出張授業を開催

未来を担う子どもたちに“生きる力”を育んでもらうために、小中高生や支援学校の生徒を対象に出張授業を開催。セブン-イレブンの環境や社会課題に対する取り組みを紹介しています。出張授業は未来世代との双方向コミュニケーションの貴重な機会です。これからも対話を通じてセブン-イレブンの未来に向けた取り組みに活かしていきます。

プログラム例

- SDGsへの取り組み
- 店舗や商品を通じた社会課題への対応
- 地域貢献の取り組みなど



こどもスマイリング・プロジェクト



身近なコンビニの取り組みから
社会課題について考えます

支援学校向け 就労支援研修



2020年度からは
オンライン授業中心に!

＼ Z世代と語る／ Sustainableで CONVENIENTな 未来のデザイン



セブン-イレブンは、2021年8月6日に京都大学主催の「SDGsリーダー育成プログラム」において全国の中高生と特別ワークショップ「＼Z世代と語る、Sustainableで Convenientな未来のデザイン」を開催しました。同プログラムは、セブン&アイ HLDGS.が参画している「京都超 SDGs コンソーシアム」の取り組みで、当社もこうしたコンソーシアムを通じて積極的に若い世代との対話を図っています。



このプログラムの
詳細はこちら！



「京都超 SDGs コンソーシアム」とは

SDGs未来都市の京都市をフィールドに産学公が連携し、SDGsの社会実装をめざす「京都超 SDGs コンソーシアム」。京都市や京都大学、学生や地域の皆さま、企業や団体など、多様なメンバーでパートナーシップを形成し連携しています。資源やエネルギー循環に関する取り組み、人口減少が課題の中山間地域の持続可能性、SDGs教育プログラムの開発など、さまざまな活動をしています。同コンソーシアムが開設した京都里山SDGsラボ「ことす」で上記ワークショップも開催。活動拠点として今後も注目です。



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



参加した学生が描く

未来のセブン-イレブン

IDEA
01

セインレストラン

セブン-イレブンの横に立っているレストラン。レストランでは消費期限が迫った商品を使った料理を活用し、格安で提供する。また、地域の人々の憩いの場としても利用できる。



Program

- 1 趣旨説明&個人ワーク
- 2 セブン-イレブンからの話題提供
- 3 グループワーク「未来のコンビニについて」
- 4 発表&振り返り&講評

IDEA
02

地域色豊かな セブン-イレブン

店員さんは地域らしさのある制服を着用する、地域商店街との商品開発やイベントを実施するなど、地域の楽しい拠点として活躍し地域との一体感を大切にしている！



IDEA
03

スカイイレブン

豊かな自然が広がる中山間地域や里山に立つタワー。そのタワー上部に店舗があり、地域のシンボリックな役割を担うとともに、ドローンで商品を運ぶなど便利さもパワーアップ！



当日参加した京都北地区担当チームより

Z世代の皆さまと楽しく新しいアイデアや意見を交わし、さまざまな気づきがありました。コンビニエンスストアは便利な商品の提供だけでなく、文化の継承や人やコトがにつながる拠点としての役割も期待されています。今後の取り組みに活かしていきます。



セブン&アイグループの環境宣言

グループ一丸となって環境負荷の低減を推進し、豊かな地球環境を未来世代につないでいくため、環境宣言『GREEN CHALLENGE 2050』を掲げています。



1. CO₂排出量削減

●グループの店舗運営に伴う排出量(2013年度比)

2030年の目標 **50%削減** ▶ 2050年のめざす姿 **排出量実質ゼロ**



3. 食品ロス・食品リサイクル対策

●食品廃棄物量の削減

発生原単位(売上百万円あたりの発生量・2013年度対比)

2030年の目標 **50%削減** ▶ 2050年のめざす姿 **75%削減**

●食品廃棄物のリサイクル率

2030年の目標 **70%** ▶ 2050年のめざす姿 **100%**

※1 セブンプレミアムを含む

※2 バイオマス、生分解性、リサイクル素材、紙など



2. プラスチック対策

●プラスチック製レジ袋の使用量

2030年の目標 **使用量ゼロ** 紙などの持続可能な天然素材にすることをめざします

●オリジナル商品※1で使用する容器は環境配慮素材※2を使用

2030年の目標 **50%** ▶ 2050年のめざす姿 **100%**



4. 持続可能な調達

●オリジナル商品※1で使用する食品原材料は持続可能性が担保された材料を使用

2030年の目標 **50%** ▶ 2050年のめざす姿 **100%**

セブン&アイグループの「サステナビリティ宣言」

明日にいいこと。つなげる、つづける。

— サステナブルな社会の実現に向けて —

社会課題の解決につながる活動に毎日の暮らしの中で一緒に取り組める存在として、お客様とつながり、日々の買い物を通じて持続可能な社会を目指す拠点となるため、グループ各社でサステナビリティ活動を推進しています。

私たちの考え

なぜ私たちは、暮らしを変えるのでしょうか。

何をすれば、未来にやさしくなれるのでしょうか。

誰ひとり取り残さない未来は、誰が作るのでしょうか。

いつまで、いつもの今日が続くのでしょうか。

どうすれば、みんなの力を合わせることができるのでしょうか。

セブン&アイグループは、みなさまと一緒に答えを探しています。

たとえ、ひとりではできないことでも

みんなでつなげれば、きっとできることがある。

ひとりのアクションは、小さくても、

みんなでつづければ、やがて未来は変わりはじめる。

毎日の暮らしの中で、みなさまと一緒にできることを。

セブン-イレブン ミニ知識

国内47都道府県に

21,167店
(2021年2月末)

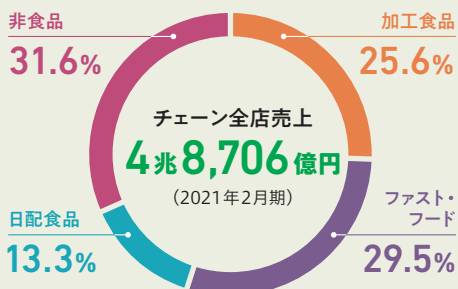


世界の16の国と地域で

72,506店
(2020年12月末現在/
日本は2021年2月末現在)



商品別売上構成比



チェーン全店売上

4兆8,706億円
(2021年2月期)

1店当たりの1日來客数

908人
(2021年2月期)



2020年に発売された新商品

約5,600アイテム



名称	株式会社セブン-イレブン・ジャパン
本社所在地	〒102-8455 東京都千代田区二番町8番地8
代表取締役社長	永松 文彦
設立	1973年11月20日
資本金	172億円
社員数	8,990人(2021年2月末現在)
チェーン全店売上(国内)	4兆8,706億19百万円(2021年2月期)



本冊子の感想をお寄せください



アンケートフォームはこちら



より詳細な取り組みはWEBをご覧ください
CSR | セブン-イレブンへ近くて便利へ
<https://www.sej.co.jp/csr.html>



発行年月：2021年10月

発行者：株式会社セブン-イレブン・ジャパン サステナビリティ推進室

企画・制作：株式会社ブレンセンター